

## 西岡会長のフォーラムでの報告原案

(2008年9月4日、木曜日、15:30、10分間、同時通訳)

私は、今回の日露投資フォーラムの日本側事務局をつとめているロシアNIS貿易会、ROTOBOの会長をしている西岡です。ロシアのヴォスクレセンスキー経済発展省次官、マトビエンコ知事、日本の高市早苗 経済産業副大臣のご列席をあおぎ、ここ、サンクトペテルブルグで2006年に続いてに開催することができ、喜ばしい限りです。

さて、第一回の日露投資フォーラム以降、日本とロシアの経済関係は、ますます発展する傾向を示しております。貿易額が昨年、213億ドルとなり、対前年比55%の大きな伸びを示しました。さらに今年は、上半期の日露貿易は、147億ドルに達し、1年間では300億ドルに達する勢いです。貿易だけではなく、ここ、サンクトペテルブルグでも、日本企業の自動車工場建設をはじめ様々なプロジェクトが進行しております。また、最近は、サンクトペテルブルグ以外でも、工場建設の動きが拡大しており、私が会長をつとめる三菱自動車も、カルーガ州で工場建設を行うこととなりました。また、ヤロスラブリ州では、コマツが建機の工場建設と、ロシア全土に、日本とロシアの間のビジネス拡大の動きが広がっております。明日の全体会合

でのテーマ「ロシアの地域開発と日ロ協力の地理的拡大」も、このような事情を反映しております。

一方、日本の輸入の面では、日本企業が投資するサハリンプロジェクトの開始とともに原油の輸入が増え、また、LNGも輸入開始も時間の問題です。LNGの輸出というのは、ロシアにとってはじめてのことで、また、日本がロシアから天然ガスを輸入するというのも、はじめてのことです。東シベリアでの日露の石油開発プロジェクトもあり、日本とロシアのエネルギー面でのビジネス・協力関係も進んでおります。

日本企業のロシアビジネスへの関心も高まりをみせており、大企業のみならず、中小企業、そして販売等、サービス産業のロシアビジネスへの関心、参入の動きも具体化しております。国内産業を市場としてきた企業がロシアに進出を考えるなど、時代は徐々に変わりつつあります。

しかし、ロシアとのビジネスは、まだまだ未知の世界という日本企業が多いと思います。まだまだ、躊躇している企業も多くあります。関心はあるが、どうしたらよいかわからないということでしょう。ロシアの制度自体がわかりにくさがあるためでもあろうかと思

います。しかし、例えば、サンクトペテルブルグ市は、詳細な投資ガイドブックを作成し、毎年のように更新しておりますが、このようなことがロシア全体に広がると、事態は変わってくるのではないかと思います。

さて、ここで、第一の提案ですが、視点を変えて、日本企業がロシア進出するだけでなく、今こそ、ロシアの地方政府、企業が日本に拠点を置き、日本進出を考えてはいかがでしょうか。日本企業がロシアに事務所、現地法人を設けている企業は、200社に達する勢いで、数え方によってはもっと多いと思います。一方、ロシア企業が日本に事務所を設けている企業は非常に少ないのが実情です。

しかし、その数少ない在日のロシア企業は、日本企業との協力という点で大きな成果をあげているところもあります。そのなかの数はROTOBOのメンバーとなっており、ROTOBOとしても、これら企業のサポートも行っております。

ロシア企業が日本に進出すると、ロシア企業の顔が見え、信用を得ることが容易になると思います。日本には多種多様な企業があり、日本にロシア企業、地方の常設の窓口があれば、きめ細かい効率的な日露のビジネスマッチングが可能であると思います。日本では、

ロシア企業という点、まだまだなじみがないので、ぜひ、日本のなかでプレゼンスを高める努力をしていただきたいと思います。ロシアも豊かになり、日本への投資、事務所開設も、以前ほどの困難さはなくなっていると思いますし、すでに、そのような動きははじまりつつあると承知しており、それをより積極化していただきたいと思います。

アメリカ、中国、ドイツあるいはチェコなど、日本に政府、地方、企業レベルで貿易・投資事務所を開設し大きな成果をあげているところも多いということを知っていただきたいと思います。

次の提案は、ロシア極東の開発プログラムが2008年、今年から実施されておりますので、これまで以上にしっかりと、このプログラムを実行していただきたいと思います。日本としても、極東は隣接地域であり、高い関心をもっております。日本からの農産物輸出などこれまでにない新たな貿易品目もありますが、ソ連時代と異なり、サハリンの石油ガスプロジェクト、木材加工等の一部を除くと、日本とのビジネス関係は発展的に拡大しているとは言いがたいのが実情です。

インフラ整備等も含め、ロシア極東の経済の全面的発展に貢献す

るようなプロジェクトを実施する必要があると思います。とくに、プログラムの重点項目でもある輸送インフラの整備は重要です。港湾、道路の整備は、極東の発展にとってきわめて重要であるので、これまで以上の政府の強い関与が望まれます。

このほど、ハバロフスク地方のソベツカヤ・ガバニに港湾型の特別経済区が設置されましたが、かつて、ナホトカが経済特区に指定され、日本企業を含め多くの外国企業が進出しましたように、ロシア極東については、港湾型経済区への期待は大きいと思います。是非、他の港湾にも拡大していただきたいと思います。

世界は、政治および経済の不安要素もありますが、こういうときこそ、内向きにならず、諸外国と政治経済面で、交流を進め、開かれた国としていくことが肝要であると思います。太平洋と大西洋に面しているロシアは、アジアとヨーロッパの架け橋として、より国際的な経済交流を拡大することを望みます。